

Ⅲ 資本等

1 資本金の状況

機構の資本金の状況は、次のとおりである。

区 分	令和2年度期首	増減額	令和2年度期末
畜産勘定	29,965,359,951円	—	29,965,359,951円
野菜勘定	260,739,653円	—	260,739,653円
肉用子牛勘定	328,562,593円	—	328,562,593円
合 計	30,554,662,197円	—	30,554,662,197円

2 財務の状況

(1) 会計処理

機構は、法人の財政状態及び運営状況を明らかにするため、独立行政法人会計基準に沿った会計処理を行っており、決算に係る財務諸表は、監事及び会計監査人による監査を受け、農林水産大臣から承認された後、機構ホームページに掲載するとともに、官報に公告し、かつ、各事務所において一般の閲覧に供している。

機構の会計は、業務ごとに経理を区分し、畜産勘定、補給金等勘定、野菜勘定、砂糖勘定、でん粉勘定及び肉用子牛勘定の6勘定を設けて整理している。

機構の各種業務を執行した結果、損益計算において利益が生じたときは、前事業年度から繰り越した損失を埋め、なお残余があるときは、その残余の額は、当該勘定において積立金として整理することになっている。一方、損益計算において損失が生じたときは、積立金を減額して整理し、なお不足があるときは、その不足額は、繰越欠損金として整理することになっている。

(2) 損益等

ア 畜産勘定

当勘定においては、肉用牛肥育及び肉豚経営安定交付金の交付業務、畜産業振興事業に対する補助業務、畜産物に関する情報収集提供業務、畜産関係団体に対する出資に係る株式又は持分の管理業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、調整資金戻入益461億1426万7000円、畜産業振興資金戻入益698億3765万2000円、運営費交付金収益6億2560万3000円、過年度補助事業費返還金10億7440万1000円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益5428万9000円、運用利息、雑益等2億5371万円を加えた1179億5992万2000円で、費用が、肉用牛肥育及び肉豚経営安定交付金等事業費625億5075万6000円、畜産業振興事業費545億1473万円4000円、情報収集提供事業費2億8730万4000円、これらに係る一般管理費等5億278万5000円を加えた1178億5557万9000円となったことから、当期利益は1億434万3000円を計上した。この結果、積立金は7459万2000円となり、前中期目標期間繰越積立金8億6998万7000円と合わせて利益剰余金は10億4892万2000円となった。

調整資金の収支は、収入が、政府からの交付金352億8096万7000円、支出が、肉用牛肥育及び肉豚経営安定交付金等事業費457億9153万9000円、情報収集提供事業費

1億7208万9000円、一般管理費1億5063万9000円であった。

一方、畜産業振興資金の収支は、収入が、政府からの交付金231億8982万4000円、生産者等からの拠出金52億1784万8000円、運用利息、雑益、過年度補助事業費返還金、調整資金運用利息等による収益の受入が11億4807万円、支出が、肉用牛肥育及び肉豚経営安定交付金等事業費166億1008万8000円、畜産業振興事業費542億7760万円の補助を行ったほか、これらに係る一般管理費等が3898万3000円であった。

令和2年度の畜産業振興事業は、酪農の経営安定対策等35項目の事業に対して補助金を交付するとともに、前年度以前に補助金として交付した畜産経営維持緊急資金融通事業、肉用牛肥育経営緊急支援事業、畜産経営力向上緊急支援リース事業、国産食肉流通合理化緊急資金支援事業及び畜産収益力強化緊急支援事業に係る返還金等12億4341万4000円については、不要財産として国庫納付した。

イ 補給金等勘定

当勘定においては、加工原料乳の生産者補給交付金等交付業務、輸入乳製品の売買業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、指定生乳生産者団体補給交付金戻入益243億円、輸入乳製品売渡収入157億3104万円に運用利息、雑益等1437万6000円を加えた400億4541万7000円で、費用が、加工原料乳生産者補給交付金等交付事業費359億2613万1000円、輸入乳製品買入費118億4550万9000円、これらに係る業務費及び一般管理費等4億8937万3000円を加えた482億6101万4000円となったため、前中期目標期間繰越積立金82億1559万7000円を取り崩したことから、当期利益は0円となった。この結果、前中期目標期間繰越積立金は170億7753万3000円となった。

【※費用のうち加工原料乳生産者補給交付金等交付事業費、輸入乳製品買入費、業務費及び一般管理費等の額を修正しました（2022.2.8）】

ウ 野菜勘定

当勘定においては、指定野菜価格安定対策事業、契約指定野菜安定供給事業、特定野菜等供給産地育成価格差補給事業、緊急需給調整事業、端境期等対策産地育成事業、野菜に関する情報収集提供業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、野菜生産出荷安定資金戻入益199億7844万円、端境期等対策産地育成事業補助金戻入益6億1968万6000円、運営費交付金収益5億1942万6000円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益6290万円、運用利息、雑益等2億8338万9000円を加えた214億6384万2000円で、費用が、野菜価格安定対策事業費191億3869万4000円、野菜農業振興事業費18億1691万6000円、情報収集提供事業費8184万2000円、これらに係る業務費及び一般管理費等2億7625万9000円を加えた213億1371万2000円となったことから、1億5013万円の当期利益を計上した。この結果、積立金は5億6428万3000円となった。

野菜生産出荷安定資金の収支は、収入が、政府からの補助金108億9664万9000円、生産者等からの拠出金92億9421万4000円、過年度補助事業費返還金等213万6000円、支出が、交付金等199億8057万6000円、負担金戻戻3億4476万2000円、国庫納付金3206万3000円であった。

エ 砂糖勘定

当勘定においては、輸入指定糖の買入・売戻業務、異性化糖等の買入・売戻業務、輸入加糖調製品の買入・売戻業務、甘味資源作物の交付金交付業務、国内産糖の交付金交付業務、砂糖に関する情報収集提供業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、糖価調整事業収入434億4608万3000円、甘味資源作物・国内産糖調整交付金戻入益101億7319万3000円、運営費交付金収益8億4360万3000円、資産見返運営費交付金戻入等926万8000円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益1億3849万5000円、雑益369万8000円を加えた546億1434万円で、費用が、糖価調整事業費622億2059万4000円、情報収集提供事業費4442万円、これらに係る業務費及び一般管理費等9億1835万6000円を加えた631億8337万円となったことから、85億6903万円の当期損失を計上した。この結果、前期繰越欠損金276億2902万2000円と合わせて、繰越欠損金は361億9805万1000円となった。

【※費用のうち糖価調整事業費及び情報収集提供事業費の額を修正しました(2022.2.8)】

オ でん粉勘定

当勘定においては、輸入指定でん粉等の買入・売戻業務、でん粉原料用いもの交付金交付業務、国内産いもでん粉の交付金交付業務、でん粉に関する情報収集提供業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、でん粉価格調整事業収入92億934万、運営費交付金収益2億8870万2000円、資産見返運営費交付金戻入292万円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益2841万1000円、運用利息及び雑益39万3000円を加えた95億2976万7000円で、費用が、でん粉価格調整事業費99億4540万、情報収集提供事業費3576万8000円、これらに係る業務費及び一般管理費等1億4780万8000円を加えた101億2897万7000円となったため、前中期目標期間繰越積立金6億1876万5000円を取崩したことから、1955万5000円の当期利益を計上した。この結果、積立金は4億756万5000円となり、前中期目標期間繰越積立金23億4142万3000円と合わせて、利益剰余金は27億4898万8000円となった。

カ 肉用子牛勘定

当勘定においては、肉用子牛の生産者補給交付金交付業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、運営費交付金収益5288万4000円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益379万6000円、運用利息及び雑益等179万9000円、過年度補助事業費返還金等59億1722万8000円を加えた59億7570万8000円で、費用が、肉用子牛生産者補給交付金3370万1000円、生産者積立助成金11億2102万1000円、これに係る業務費、業務委託費及び一般管理費等11億1997万9000円を加えた22億7470万1000円となったため、37億100万7000円の当期利益を計上した。この結果、積立金は37億452万3000円となり、前中期目標期間繰越積立金19億9420万8000円と合わせて、利益剰余金は56億9873万円となった。